

# 一からのまちづくり、公民館づくり

「社会教育としての公民館」

はじめに

白帆台ニュータウンは、かつて広い農地でした。昭和六十三年に町づくり基本調査が行われ平成八年に事業許可、翌九年の本工事着工を経て平成十三年に第一期分譲の開始となりました。二年後の平成十五年に白帆台町会設立。平成十八年に白帆台公民館が完成となりました。今では世代を問わずに誰もがいきいきとゆとりのあるスローライフを求める人達が集まる町が形成されました。

急激な人口増加

分譲地として街づくりが始まった白帆台ですが当初数年間は入居者が伸びず、多方面の努力により、ここ数年で世帯数が大幅に増加しました。平成二十九年現在、世帯数は六百三十五、人口は二千九十八人と成り中でも子育て世帯が多く、子供の人口増加に伴い平成三十年四月には新しい白帆台小学校が誕生を迎える事になりました。風を受けて大海原

を駆け抜ける帆船をイメージした外観、自然豊かで安全な教育環境も整いました。今後、地域と学校の連携、協働を深めたネットワークの構築が期待されています。

新しい街づくりに

東大が参加？

平成二十四年度から三年間、内灘町と東京大学大学院教育学研究科が連携し「公民館を核とした地域づくり共同研究」が行われました。

同大学牧野教授らがモデル公民館を指定。そこに運よく白帆台公民館が選ばれたのです。

内灘町は全国でも稀な全町会に公民館を置く「一町会一公民館」という形態をとっていました。そんな町民にとって「当たり前」が実は珍しいということに気づかされたのでした。今回は、その優位性を生かした独自のまちづくりをテーマに大学院生も加わりワークショップを行いました。今の白帆台、十年先の白帆台を自分たちはどうしたいのか、どうするべきなのかをディスカッションし、形にすることが出来ました。地域への愛着・地域の役に立つ事が自己

## 内灘町立白帆台公民館

成長の場になることを、お互い確認し合い、大変貴重で有意義な共同研究になりました。



公民館を核とした地域づくり東京大学と共同研究



心結ぶ夏まつり

歴史が浅い町でありながら白帆台では年間を通じて多彩なイベントが開催されています。

平成二十七年、公民館組織に属する当時の青年部リーダーの強い想いで、青年部主催の納涼祭を開催しました。

極端に少ない予算の中、頭に汗をかき、知恵を出し合いながら手さぐりで準備を進め、手造りの櫓に提灯の明りが灯り、その周りで沢山の町民の方々が浴衣姿で輪踊りを踊り始めた時は青年部リーダーと抱き合い喜びを分かち合いました。



小学5年6年児童子どもよさこいを披露

その後、この活動に賛同頂いた町会長が青年部主催ではなく、町会主催として大きなイベントとして力を注いで頂き、白帆台町会と公民館が一つになり、大きなうね

りと成りました。「白帆台夏まつり」と改名し、町会が主催、食べ物、ゲームを中心とした屋台を公民館が受け持つ形で再スタートを切りました。



3世代で楽しむ和踊り

今年には五百八十名の参加となり屋台の品々も早い時間に売り切れが続出、参加者に対し、運営側の人数が不足していたことが今後の課題でもあります。

### 〜毎年違う文化祭?〜

秋に開催する文化祭は、今年で十一回目を迎えます。文化部が主体となり「毎回違う事?」をするこのイベントは、今年も行楽シーズンの三連休初日にも関わらず、五百人を超える多世代の町民で賑わいました。

その「毎年違う?」今年のテーマは「星空と出店」とし公民館ホー

ルに直径四m以上のドームを設置し、そこでプラネタリウムを行い、子供から年配の方まで楽しんで頂きました。



ホール出現したプラネタリウムで宇宙体験

ある年は、公民館ホールに巨大な鳥居と神社が出現、秋の収穫を祝う日本の秋祭りを再現しました。「これが文化祭なの?」と言う声も有りながら楽しく参加してほしいという文化部リーダーの意向。そして、運営する側が楽しいと思えるイベントは絶対に楽しんで貰えるはず。という私達の考えが良く分かって頂ける行事と成っています。

もちろん文化祭ですから、作品展示も満載で白帆台保育園、小学児童作品、公民館切り絵サークル、えんぴつ習字、趣味の写真等、様々な文化的作品も多く展示しています。ここでも公民館利用から住民同士の関係づくり、世代間の結び付きの大切さを実感しています。



家族連れで賑わう各部の模擬店

### 〜環境保全活動〜

白帆台公民館は平成二十一年十一月から「いしかわISO」認定公民館に指定され、環境保全活動に取り組んでいます。環境部が中心となり今年で八年目になります。

毎年五月に事務所、和室の窓にグリーンカーテンの植え付けを行っていきます。きゅうり、あさがお、ゴーヤ、マンゴ等その年により選んでいます。又、水やりも雨水を貯めるタンクから行う努力を重ねています。



グリーンカーテン・きゅうり栽培

ある年には、エコフェスタを視察し関係団体と繋がり、公民館行事で連携をして頂いたこともあり、白帆台公民館内外での繋がりも発展の為、大切にしています。

### 〜今後の課題〜

若い世代へ公民館活動を継承して行く取り組みの一方で、世代間交流も重要事項と考えています。社会全体が高齢化、核家族化、単身世帯による人と人のつながりの希薄化が地域力の低下、地域コミュニティの弱体化につながると懸念されます。

公民館事業を通じて多様な人が集い、協働するためのネットワークの形成など、人々が主体的に地域に参画し相互に支え合えることで、物質的豊かさだけでなく精神的豊かさを重視した真の豊かさの実現につながると思っています。

一人ひとりが地域の活動を支え誰もが地域の担い手として、自己の人格を磨き豊かな人生を送ることが出来る生涯学習社会を目指しております。

「地域密着型公民館の可能性」を継続して探り、経験豊かな高齢者の知恵や意見から学ぶことができる交流事業の充実、地域課題の解決やまちづくりの基盤となる地域のつながりが人を育て、人が地域をつくる自分たちのためのまちづくりを考えています。